

2004年の「集めて使うリサイクル協会」

集めて使うリサイクル協会
会長 和田 志津子

昨年は当協会も大きくステップアップしました。内的には理事会の強化、総会や学習会の開催、そしてNPO法人申請。外的には、酒販店を回収拠点とする酒パックリサイクルシステムが、日本山村硝子(株)のガラスビンカレット回収システムとの連携や、全国小売酒販組合中央会の協力による広報紙での呼びかけなどによって進展。酒販店からの問い合わせも増え、「エコ酒屋」の輪が広がりつつあります。

また、永い間の懸案であった未洗浄紙容器の中間処理場づくりについても、昨年は関西で1か所設置され、今年も1か所の建設が予定されています。このような仕組みの中で、企業間の連携による“集めて使うリサイクル”を積極的に推進していく考えです。

昨年12月に開催したシンポジウムの中で、「今後の消費行動は、単に安ければよかった時代から、『どんなものを買うのか』『誰から買うのか』をよく考えて買う時代へと変化していく。企業の側は、より厳しく選択されるようになる」といった指摘がなされました。暮らしの中でのグリーン購入を促進していくためにも、パックマーク（牛乳パック再利用マーク）の認知度をさらに高めていけるよう、取り組みを強めていきたいと思えます。

今春には、「NPO法人集めて使うリサイクル協会」として新たなスタートを切る予定です。皆様には、引き続き温かいご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

謹賀新年

旧年中は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございました。本年も循環型社会形成への貢献を理念として、精一杯努力してまいりますので、何卒よろしくご指導ご支援のほどお願い申し上げます。

二〇〇四年一月一日

集めて使うリサイクル協会 事務局一同



NPO法人の認証を申請

集めて使うリサイクル協会は、昨年10月、大阪府に対して特定非営利活動（NPO）法人の設立認証申請を行いました。設立目的には「資源循環型社会の構築に寄与し、もっと持続可能な社会の発展に貢献すること」と記しており、法人格を取得することにより今まで以上に社会的責任のある活動を行っていきたいと考えています。

パックマーク普及キャンペーンを各地で展開

集めて使うリサイクル協会では今年度、地球環境基金の助成を受けて牛乳パック再利用商品の普及・グリーン購入促進キャンペーンを行っています。各地の環境関連イベントにパックマーク商品サンプルや啓発パネルを貸し出すもので、これまでに次のようなイベントに参加しています。引き続きキャンペーンキットの貸し出し（無料、運賃のみご負担ください）を行っていますので、ご希望の方はお気軽にお申し込みください。

- ・「第17回牛乳パックの再利用を考える全国大会」8/23～24（熊本・水俣市もやい館）
- ・「NEW環境展」9/3～6（大阪・インテックス大阪）
- ・「3R推進月間特別企画展 はじめよう！地球にやさしい暮らし方」10/5～19（東京・板橋区エコポリスセンター）
- ・「三沢市みんなの消費生活展」10/17～18（三沢市勤労青少年ホーム・働く婦人の家）
- ・「環境保全&チャリティコンサート“ミュージックフェスタ”」10/5（静岡・伊豆長岡町総合会館アクシスカつらぎ）
- ・「環境フェスティバル21」11/8～9（大阪・万博記念公園）
- ・「グリーンコンシューマー講座“ゴミはもっと減らせます”」11/12（埼玉・草加市勤労福祉会館）
- ・「南郷村健康福祉まつり」11/15～16（青森・グリーンドームなんごう）
- ・「和光市消費生活展」11/16（埼玉・和光市サンアゼリア）
- ・「川崎市消費生活展」11/22（神奈川・川崎地下街アゼリア）
- ・「エコプロダクツ2003」12/11～13（東京・東京ビッグサイト）



板橋区で行われた「3R推進月間特別企画展」



子供たちの姿も目立った「エコプロダクツ2003」

シンポジウム「牛乳パックリサイクルとグリーン購入」

12月9日（火）、当協会主催のシンポジウム「牛乳パックリサイクルとグリーン購入」が東京・代々木の全理連ビル会議室で行われました。地球環境基金助成事業「牛乳パック再利用商品の普及・グリーン購入促進プロジェクト」の一環として開催されたもので、基調講演ではNPO法人グリーンコンシューマー東京ネットの秋元智子氏が「グリーン商品の現状とグリーンコンシューマーのあり方」と題してお話をされました。また、続いてのシンポジウムでは、誕生10周年を迎えた牛乳パック再利用マーク（パックマーク）をどう生かしていくかなどが話し合われました。



■私たちのライフスタイルを変えないと環境問題は解決しない

基調講演で秋元さんは、環境問題の多くが「大量生産・大量消費・大量廃棄」の社会システムに起因しており、その解決のためには法的規制・誘導とともに個人個人のライフスタイルの変革が不可欠であると指摘。そのために誰もが気軽に取り組める運動として、グリーンコンシューマー運動を紹介しました。秋元さんが強調するのは、グリーンコンシューマー運動が単なる購買運動ではなく、「環境に配慮した商品やサービスを選択することで、企業や流通を変え、社会を循環型に変えていく運動である」という点です。また、同ネットが出した「グリーンコンシューマー100万人宣言」に沿って、グリーンコンシューマーのあり方を次の12点にまとめました。

- ①必要なものを必要なだけ買う
- ②長く使えるものを選ぶ
- ③包装はできるだけ少ないものを選ぶ
- ④マイバッグを持っていく
- ⑤省資源・省エネルギーのものを選ぶ
- ⑥季節に合った生活をする
- ⑦近くで生産されたものを選ぶ
- ⑧安全なものを選ぶ
- ⑨容器は再使用できるものを選ぶ
- ⑩再生品を選ぶ
- ⑪環境問題に取り組んでいる会社のものを選ぶ
- ⑫グリーンコンシューマーの仲間を増やす

■消費者への情報伝達不足がグリーン購入の進まない要因

このうち④の点に関して、日本人は平均すると1人当たり1日1枚のレジ袋をもらっている計算になり、それらを焼却したとすると自動車60万台分の年間二酸化炭素排出量に相当するというデータを紹介。また⑪については、「企業の側も消費者にとってもっと分かりやすい情報提供を心がける必要がある」と話しました。

秋元さんは2000年に制定されたグリーン購入法についても紹介。「国家機関は環境負荷の低減に資する物品・役務を調達する義務が課せられ、地方公共団体には努力義務、事業者や国民にはできる限りグリーン商品を選択する一般的責務がある。しかし、なかなか進んでいないのが現状であり、消費者のところまできちんと情報が伝わっていないこともその一因」と分析しています。

■パックマークの認知度向上を購入手続きにつなげるのが課題

シンポジウムは、(株)ダイナックス都市環境研究所の小田内陽太氏の進行で行われました。小田内氏はグリーン購入運動を「市場経済レベルでの運動」と「暮らしレベルでの運動」に分け、前者ではグリーン購入の「量」を組織的に拡大・確保すること、後者では消費生活の構造・質を日常感覚で見つめ直し、環境に配慮した暮らし方を育み広げていくことが、それぞれポイントになると問題を提起しました。

パネラーの平井成子氏（全国牛乳パックの再利用を考える連絡会）は、「牛乳パック回収運動を進める中で、集めるだけでなく再生品をきちんと使うことが大切だと気づき、自分たちでお買い物の目印をつくらうということになった」と、パックマークの制定過程を説明。「認知度はかなり高まっているが、それが必ずしも購入につながっていないこと」を課題として挙げました。

川原勝弘氏（信栄製紙（株））は、「他社では扱わない機密書類やミックスペーパーなどを原料として使っているのが特徴」と述べ、「直接回収・直接販売にできるだけ近づけることで効率を高め、回収団体への還元を増やしたい」と抱負を語りました。

■エコロジーの意味を体感しないと消費者の購買行動は変わらない

上山静一氏（イオン（株））は、同社の環境マネジメントシステムなどについて紹介し、「本業の中に環境保全・社会貢献活動を組み入れることが重要」「エコロジーの意味を体感しないと購買行動は変わらない」と話しました。

天野浩尚氏（鎌倉市）は、グリーン購入の最大の課題として「市民啓発と職員の意識向上」を挙げ、市民参加の環境推進会議を中心に活動を進めていくことを表明しました。

加藤節子氏（長野県セルフセンター）は、障害者の作業所が牛乳パックの回収とその再生トイレットペーパーの販売を行う全県的ネットワーク「リサイクルロンドながの」について紹介。「社会福祉施設は、いろいろな意味で地域に合わせたサービスを展開していくことがますます重要になる」と語りました。

秋元氏は討論の内容を踏まえて、生産者・流通・消費者・自治体などそれぞれのセクターの役割と責任を整理し、「社会全体でエコマインドを高めるための情報発信・交流を活性化していかなければならない」とまとめました。

会員募集中！

集めて使うリサイクル協会は、企業や団体、市民の方々の多様なリサイクル活動をサポートします。

<年会費> 企業会員=60,000円
個人会員=1,000円

会員の皆さまへ

企業会員の新しいリサイクル商品に関する情報や、リサイクルに関する取り組みなど、また個人会員のリサイクル活動などを、紙上でご紹介いたします。掲載料は無料です。どんどん情報をお寄せください！

<http://www.r-kyokai.org>